



■ 特集 発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生学的特性に基づく
高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究

- 1 前方視的多施設共同研究 3 大プロジェクト—脊髄脂肪腫の自然歴と手術適応 [COE-SB Top 7 Japan], 胎児水頭症の治療指針と予後 [COE-Fetal Hydrocephalus Top 10 Japan], 軽度三角頭蓋の症候と外科的治療 [COE-Trigonocephaly Big 4 Japan]—
大井静雄
- 10 発達期における上衣細胞繊毛の成熟と脳脊髄液循環
黄 詩恵 廣田ゆき 澤本和延
- 16 代償性水頭症の大脳皮質における神経細胞死の解析
—先天性水頭症ラット H-Tx を用いて—
宮嶋雅一 野中康臣 新井 一
- 22 マイクロイメージング法によるヒト胚子・胎児の骨格系および中枢神経系の観察
塩田浩平 山田重人 森本直記 荻原直道 片山一道 巨瀬勝美
- 27 阪神地区での脊柱検診の現状と潜在性二分脊椎の疫学的検討
森山徳秀 橋 俊哉 岡田文明 圓尾圭史 井上真一 加藤洋規 吉矢晋一
- 30 妊娠早期での診断を目指した二分脊椎症胎児のスクリーニング
1. 生殖補助医療による妊娠が母体血清マーカー値に及ぼす影響の検討
2. 妊娠早期における二分脊椎症胎児検出のアルゴリズムの検討
—母体血清マーカーテストと超音波検査の組み合わせ—
田中忠夫 杉浦健太郎 和田誠司 梅原永能 川口里恵 高橋絵里 野澤幸代
林 博 杉本公平 大浦訓章 恩田威一
- 35 脊髄脂肪腫の症候および症候化する時期に関する臨床研究
長坂昌登 加藤美穂子
- 38 脊髄脂肪腫の自然歴と治療方針に関する前方視的多施設共同調査
— 2006 ~ 2007 年度登録症例の経過報告—
鈴木倫保 野村貞宏 大井静雄 新井 一 長坂昌登 白根礼造 稲垣隆介
西本 博 伊達裕昭
- 42 二分脊椎患者に認める高次脳機能障害の早期発見に向けて
伊達裕昭 伊藤千秋 沼田 理 田山智子
- 46 二分脊椎症者の発達障害およびその生活環境
木原 久 山口克彦
- 49 乳児期から 15 歳以降まで経過観察した開放性脊髄膜瘤患者の移動能力
芳賀信彦 四津有人 滝川一晴
- 52 脳機能画像法を用いた認知的研究に向けて
平石博敏
- 56 稀な頭蓋形態を示した頭蓋縫合早期癒合症症例の検討
稲垣隆介 久徳茂雄 河本圭司
- 61 胎児診断の現状, アンケート結果から
稲垣隆介 大井静雄 河本圭司

- 63 **Mild trigonocephaly — Report of 300 operative cases —**
Takeyoshi Shimoji Kazuaki Shimoji Katsumi Yamashiro Tomoaki Nagamine
Junichi Kawakubo
- 74 頭蓋骨縫合早期癒合症における高次脳機能発達障害の治療および総合医療に関する研究
—頭蓋骨縫合早期癒合症の外科的治療成績と知能予後不良因子—
西本 博 栗原 淳 大淵敏樹
- 76 頭蓋縫合早期癒合症の術前後での脳循環代謝及び高次脳機能に関する研究
下地一彰 新井 一
- 81 胎児診断された水頭症に関する検討
白根礼造 林 俊哲 星合哲郎 島貫義久 斎藤潤子 富永悌二
- 84 水頭症治療後の高次脳機能変化に関する研究
遠藤俊郎 浜田秀雄 高岩亜輝子
- 86 **Cine MRI** による非侵襲的頭蓋内コンプライアンス測定法
—特発性正常圧水頭症での検討—
間瀬光人 宮地利明 大沢知士 出村光一朗 山田和雄
- 90 **Diffusion tensor imaging** による水頭症の評価
大須賀覚 山本哲哉 石川栄一 松下 明 松村 明
- 95 乳児脳室拡大に対するシャント適応
門脇親房
- 97 先天性水頭症に対する神経内視鏡の有効性の検討
伊達 勲 小野成紀
- 99 乳幼児期における水頭症の認知機能の特徴について
斉藤和恵 野中雄一郎 田母神令 大井静雄

既掲載 (小児の脳神経 Vol. 33 No. 6)

シャント治療の現状と問題点
三宅裕治

世界の水頭症研究最前線——今世紀の文献レビュー——
— Part 1 古典的コンセプト：病態とシャント—
篠田正樹 大井静雄

105 日本小児神経外科学会会則
107 投稿および執筆規定
113 お知らせ

115 編集後記 新井 一

JSPN ジャーナル アートサロン：
澁澤龍彦著「高丘親王航海記」より“飛ぶ舟”銅版画（メゾチント）
(橋都浩平，非会員)

25年ほど前から銅版画をやっている。最初は一般的なエッチングだったが、メゾチントの美しさに惹かれ、この20年間はこの技法だけをやってる。そして澁澤龍彦の小説「高丘親王航海記」に出会ってからは、それをテーマに制作を続け、2007年には個展を開くことができた。これは主人公の高丘親王がアラカン（現在のミャンマー）から南詔（現在の雲南省）へと空を飛んで行く場面である。